

第百九十九話 我が国の再生を目指して

大東亜戦争メモランダムを終えるに当たり、その間に小生が感じた日本再生の処方箋の一部をアットランダムではあるが提示する。

1 戦争の呼称について

戦争目的に直結し、国家のアイデンティティに関わる問題であり、一般的な名称は当該戦争の意義をも見失わせる。自信をもって使用すべきことから日本再生が始まる。

2 極東軍事裁判の不当性、当該裁判で示された特異な史観及びGHQにより強要された憲法その他の諸政策を見直し、国民自らの手で新たな日本の姿を確立する必要がある。

3 日本国家としての大東亜戦争に係る正史の確定が必要である。

4 一部の国による謂われなき誹謗中傷に対しては、毅然として反論すると共に、我が国としての対外発信力の強化が必要である。

5 大東亜戦争間に露呈した日本人の弱点、日本型組織運営の欠陥等を明らかにして、それが改善努力を図るべきである。特に、有事においては温情主義、妥協的・忸怩の態度、明確な命令・指示が必須だ。

6 戦争に負けたのは事実であり、その過程において種々の誤りを犯したのも事実である。反省すべき点は謙虚に反省する必要がある。

7 国家的リーダーを如何にして育成するかを検討する必要がある。戦後の日本ではエリート教育が毛嫌いされているようだが、それでいいのか？リーダーたり得る者を如何に見出し育てるかを真剣に考える時期ではないか。

8 戦没者の慰霊・顕彰に関する国家施策を確立すると共に、未帰還戦没者の御遺骨の還送は急務であり、徹底的な対策を講じる必要がある。

9 アジア諸国との共存共栄を図ると共に地域の文明的リーダーとしての役割を果たすと共に、国際的な安定と安定に寄与する。アジア諸国に対しても、大東亜戦争に関する日本の正当なる立場を丁寧に説くべきである。

10 大東亜戦争は決して愚かな、無意味な戦争ではなかった。アジア欧米植民地解放に大いに貢献し、且つアジア諸国民覚醒の一石を投じた。

11 決して独善的にならないのは勿論だが、日本人は自らに自信と誇りを持つべきである。卑屈になる必要は毛頭ないし、卑下し、自虐的になるべきではない。戦争間に示された愛国心や殉国精神は美德であり、もっと誇って良い。経済の復興もさることながら精神の復興こそが肝要だ。忘れられていないか？

12 自衛のため又は、強いられた戦いであったとは云え、外国に多大なる損害を与えた事実は変わらない。そのことは認識しておくべきではある。

13 戦争の責任を一部の戦犯とされた者のみに帰し、自らの責任を回避するは卑怯だ。

14 戦争責任を所謂戦犯に押し付けたことにより、自ら真摯に戦争に向かい合ってきたのが戦後の日本人である。そろそろ真正面から大東亜戦争に向かい合って将来の日本のための教訓を汲み取らねばならない。

15 「戦争の犠牲」という語彙の中には大東亜戦争は無意味・愚かな戦争であったとの深層心理が潜んでいると思う。戦没者は、犠牲者ではなく、尊い殉国精神の発露による散華だったと認識すべきだ。徒に美化するものではないが、至当にその純粋性を認めるべきである。犠牲と言う時には、悪徳代官に死を強いられたと認識しているからだろう。

16 日本人に限らず、人間は、極限状況に陥るとその本性が露わになるものであり、その発現率を可能な限り低くする人間教育が必要である。

17 若者に対する大東亜戦争についての相応の教育が必要だ。

(第百九十九話 了)